

## 2025/12/16 第4回 東京こども DX2025 つながる子育て推進会議

日時 2025/12/16 13:30-14:45

場所 都庁第一本庁舎 7階大会議室

### 参加者

豊崎 由里絵 株式会社アミューズ所属フリーアナウンサー  
一般社団法人シェア実家 代表理事  
高石 尚和 一般社団法人 こども DX 推進協会 代表理事  
望月 明雄 内閣官房 デジタル行財政改革会議 事務局長代理  
藤原 朋子 こども家庭庁 長官官房長  
三角 育生 デジタル庁 デジタル監  
寺田 好孝 新宿区副区長 (CIO)  
福島 秀男 福生市副市長 (CIO)  
小池 百合子 東京都知事  
中村 倫治 東京都副知事  
宮坂 学 東京都副知事  
栗岡 祥一 東京都副知事  
松本 明子 東京都副知事  
土村 武史 政策企画局次長  
田中 愛子 子供政策連携室長  
高崎 秀之 福祉局長  
山田 忠輝 保健医療局長  
高野 克己 デジタルサービス局長  
畑中 洋亮 一般財団法人 GovTech 東京 業務執行理事兼最高戦略責任者

### 【高野局長】

定刻となりましたので、これより第4回 東京こども DX2025 つながる子育て推進会議を開会いたします。本日は御多忙の中、御出席賜りまして、誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます、東京都デジタルサービス局長の高野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、本日御参加の皆様を御紹介させていただきます。

ゲストスピーカーとしまして、フリーアナウンサーの豊崎由里絵様にお越しいただいております。

### 【株式会社アミューズ所属フリーアナウンサー

一般社団法人シェア実家 代表理事 豊崎由里絵さん】

よろしくお願いいたします。フリーアナウンサーで、一般社団法人シェア実家代表理事をしております、豊崎由里絵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【高野局長】

続きまして、一般社団法人こども DX 推進協会から、高石尚和代表理事。

**【一般社団法人こども DX 推進協会 高石代表理事】**

高石でございます。よろしくお願いいたします。

**【高野局長】**

デジタル庁から、三角育生デジタル監。

**【デジタル庁 三角デジタル監】**

デジタル庁デジタル監の三角でございます。よろしくお願いいたします。

**【高野局長】**

内閣官房デジタル行財政改革会議事務局から、望月明雄事務局長代理。

**【内閣官房 デジタル行財政改革会議事務局 望月事務局代理】**

望月でございます。よろしくお願いいたします。

**【高野局長】**

こども家庭庁から、藤原朋子長官官房長。

**【こども家庭庁 藤原長官官房長】**

こども家庭庁官房長の藤原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**【高野局長】**

特別区長会から、新宿区 CIO の寺田好孝副区長。

**【新宿区 寺田副区長】**

新宿区副区長の寺田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【高野局長】**

市長会から、福生市 CIO の福島秀男副市長にお越しいただいております。

**【福生市 福島副市長】**

福生市の福島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**【高野局長】**

なお、東京都および GovTech 東京の出席者につきましては、お手元のタブレット内がございます座席表をもって代えさせていただきます。

それでは、会議の開会に当たりまして、小池東京都知事から一言御挨拶申し上げます。

**【小池都知事】**

皆様、こんにちは。

今日は御多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

子育て分野のサービス変革に取り組む「こども DX」、こちらではプッシュ型の子育てサービスなどの取組を進めております。

昨年度におきましては、「018 サポート」の手続を改善いたしまして、「保活ワンストップ」など新たなサービスを開始したところでございます。

そして今年度でございますが、「018 サポート」と「赤ちゃんファースト」の同時申請、また、「保活ワンストップ」の拡大など、さらなる改善、そして拡充を進めております。

皆様方と課題を共有いたしまして、アイデアを出し合いながら取り組んでいく、そして目に見える形で成果が出てきたところでございます。

子育て世代に寄り添った対応を進めるためにも、当事者の声が大切ということで、今日は保育士の資格を活かした支援事業も行われていらっしゃいます、フリーアナウンサーの豊崎由里絵さんをゲストスピーカーにお迎えをいたしております。どうぞよろしく願いいたします。

子育て世代は本当に忙しい、一言で言うと忙しいということでございます。デジタルの力で利便性の高いサービスを提供することで、もっと安心して子育てができる環境づくり、これを進めていきたいと考えておりますので、皆様方から様々なお話を伺えることを楽しみにいたしております。よろしく願い申し上げます。ありがとうございます。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、こども DX プロジェクトの取組状況と成果につきまして、御報告させていただきます。本プロジェクトは東京都と GovTech 東京が協働で事業を進めております。今日は GovTech 東京の畑中洋亮業務執行理事 CSO から詳細を御報告させていただきます。

#### 【畑中理事】

皆様こんにちは。GovTech 東京の畑中でございます。

おかげさまで GovTech 東京も設立から 2 年が経ちまして、300 人を超えてきたところでございます。この間、東京都とバディで進めてまいりました「こども DX プロジェクト」の取組状況、成果を御報告いたします。

まず 1 つ目は、プッシュ型子育てサービスになります。

都は、子育て世代に必要な情報を民間事業者の皆様からプッシュ配信、こういったことを実現するため、先行プロジェクトで自治体の子育て支援制度のレジストリ、データベースを整備しました。これを踏まえまして、国では全国的なレジストリの仕組みを構築いたしまして、先月から運用を開始されています。さらにレジストリの API 公開がされ、自治体・民間で様々な媒体を通じ、よりパーソナライズされたプッシュ配信を実施してまいります。

一方、第 1 回のこの会議のゲストスピーカーの方から、「妊娠届提出時に受け取る印刷物がすごく多くて、情報が探しにくくて管理が負担」というお話を頂いておりました。その対応としまして、来年の 1 月から、母子健康手帳の機能を備えたアプリを活用し、マンスリーでのプッシュ配信、そして印刷物のアーカイブを進めまして、保護者がアプリから自治体の情報をいつでも確認でき、情報を探すという手間を省けるようにいたします。政府から、紙からデジタ

ル、母子手帳への移行方針が示されている中で、都内で横展開可能なベストプラクティス作りを進めてまいります。

2つ目は、母子保健オンラインサービス（PMH）でございます。

今年度、子ども医療費助成では、累計 27 区市町が PMH に接続するという見込みでございます。これにより、都内こどもの総人口の約 40%にあたる約 73 万人の方が、マイナンバーカードで、いわゆる子ども医療費の受給者証を兼ねることが実現します。保護者の皆様からは、「マイナカード 1 枚で診療受付ができるので楽になる」、そういった声をいただいております。

また、接続した自治体では、医療費の請求・支払事務の負担軽減が図られております。

また、医療機関では、国・東京都の補助や普及啓発によって接続数は大幅に増え、5,800 施設まで伸びております。医療機関側も、受付業務の所要時間が 50%以上減るといったデータも我々調査してまいりまして、現場の負担軽減を確認しております。

3つ目は、保活ワンストップになります。

昨年 10 月、保育園の情報収集、そしてオンラインでの見学予約などがワンストップで実現するサービスを開始いたしました。今年度は 19 自治体、1,276 園に拡大しております。来年度、この都の取組をもとに、国が全国版の保活ワンストップサービスの運用を開始する予定です。今後都内では、現在実施しております 19 自治体以外にも、この国のワンストップサービスへ複数自治体が参加する予定でございます。

さらに今年度は、新たに 2 機能を実装いたします。1つ目は、「保活オンライン相談機能」でございます。小さなお子さんを抱え、ベビーカーやオムツなど荷物も多い中、自治体窓口へ相談に行き、待つというのは大変負担が大きいわけですが、オンライン相談で予約でき、待ち時間もなく安心して御相談いただけます。11 自治体での先行稼働をしております。2つ目は、「保育指数のシミュレーション機能」でございます。自治体が個別に定める入園指数を簡単にチャットボット形式で試算ができ、入園希望を出す園の検討がしやすくなります。来月から 9 自治体で始まります。これらの成果を国ともしっかりと共有してまいります。

最後の 4つ目が、給付金手続きの利便性 UP でございます。

「018 サポート」では、先ほど御紹介ありましたとおり、マイナンバーカードとスマホで、ワンストップで申請できる、こういう爆速なサービスに変わりました。4 月からは「赤ちゃんファースト」との同時申請を可能としたワンスオンリーも実現しており、満足したという御利用者の割合は 92%と非常に高く、所要時間 10 分以内の利用者も大幅に増えております。「018 サポート」においては、引き続き、魅力的品質を維持したいと考えております。また、この間様々なアンケートを通して、出生届から始まるマイナンバーカード発行や医療保険申請など、申請関連の手続きについて、現在、国や東京都の 8 つの自治体と連携して、都内でワンスオンリーの導入事例を創出したいと考えております。

以上、駆け足でございましたけれども、2025 年度を目標として取り組んできたプロジェクトの成果を御報告いたしました。デジタルの力で、組織の垣根を越えて、社会全体で子育てを切れ目なく支える象徴的なプロジェクトになったと思います。こういった仕組みを他の分野でもしっかり活かしていきたいと存じます。御清聴ありがとうございました。

### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、国の取組状況についてお話しいただきます。  
まず、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局の望月事務局長代理、お願いいたします。

### 【内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 望月事務局長代理】

よろしく願いをいたします。

お手元の資料1ページの方になろうかと思えますけども、こちらの方から入らせていただきます。まず、デジタル行財政改革会議でございますけども、この会議自体は人口減少の中で、利用者起点でデジタルを最大限に活用して、公共サービスの維持、また社会課題の解決を目指す、こういったものがミッションになっている会議体でございます。

デジタル行財政改革の取組でございますけども、子育て分野につきましては重要な柱というふうに考えておりました、資料の中でも赤枠で囲んでいるところになりますが、本年6月の閣議決定でも、先ほど東京都さんの方から御説明がありました、プッシュ型の子育て支援の実現、また保活ワンストップをはじめとした様々な案件、これを盛り込ませていただいているところでございます。我々内閣官房でございますので、取りまとめ役といたしまして、関係省庁と、また自治体や保育所の皆さん、また子育て世代ですね、その負担軽減に向けて尽力をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

次のページをお開きください。2ページ目になります。中でも、プッシュ型の子育て支援につきましては、現在も我々自身が精力的に自治体と連携をして行っているところでありますけども、東京都の先行プロジェクトを踏まえつつ、子育て支援制度レジストリの構築を国において行い、配信のための基盤を整備いたしております。このレジストリを整備しますと、子育て世代の皆様にとっては、普段お使いのアプリなどを通じまして、適切なタイミングで支援制度を確認できるようになるということで、直接というよりむしろ下支えとして非常に大切な役割を負っていると考えております。

現在の進捗でございますが、東京都の全ての自治体を含みます213の自治体におきまして、先行して支援制度の登録を済としておりまして、所要の手続を経まして、確認の済んだ団体が公開するとなっておりますけども、最新の数字、これ昨日現在ということになりますが、143の自治体がデータを公開しているというところまで来ております。

子育て世帯への支援が確実に届くと、大切なことでございますので、引き続き東京都さんと協力をさせていただきながら、一層普及に努めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

### 【高野局長】

ありがとうございました。続いて、こども家庭庁の藤原長官官房長、お願いいたします。

### 【こども家庭庁 藤原長官官房長】

こども家庭庁藤原でございます。

本日は本会議にお招きいただきまして誠にありがとうございます。東京都の皆様、そしてこどもDXプロジェクトの関係の皆様との連携は、こども家庭庁がこども政策を推進するにあた

りまして非常に重要で、また大変ありがたく、心強く思っております。また畑中さんには子ども家庭庁の参与も引き受けていただいております、日頃からサポートいただいておりますことに改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

子ども家庭庁からは、資料1枚目ですね、まず御覧いただければと思います。保活のワンストップの実現の状況について御報告を申し上げます。昨年12月に策定をいたしました、保育政策の新たな方向性、この中で「保育DXの推進による業務改善」を重要課題として掲げております。この取組の1つとして、保活ワンストップの実現に向けた、「保活情報連携基盤」の構築を進めておまして、令和8年度から全国展開を図ることとしております。この保育DXの中で、保活ワンストップも非常に重要であると考えております。

保活は、情報収集や保育園の見学予約、これ非常に煩雑な業務・事務でございます。お母さんにとっても非常に大きな事務負担になっていて、しかも出産後の慣れない育児をスタートして、試行錯誤の生活の中でこういった仕事を合わせてやらなければいけないということで、心身両面で大きな負担となっているというふうに承知しております。こうした課題を解決するため、保活情報連携基盤では、一連の保活に関する手続をワンストップ・オンラインで完結させることによりまして、保活での保護者の不安や負担も軽減させるということ、全国レベルで目指しております。

先月11月末時点でございますけれども、次のページを見ていただきますと、このワンストップの内容について入っておりますけれども、こういった連携基盤に参加の意向を示している自治体が、先月の時点で170自治体ほどございます。利用申請は継続して受け付けているところでございますので、今後も周知や広報を行いまして、さらなる利用拡大を図ってまいります。

また次のページですが、令和7年度の補正予算案におきましても、本システムの機能改善、例えば入園基準の指数計算の機能ですとか、見学予約の即時予約承認機能などの機能改善に向けた必要な経費についても計上をいたしております。

こうした国における取組の推進にあたりましては、全国に先駆けて本課題に取り組まれておられる東京都の皆様のノウハウも大変参考にさせていただいております。国としても全国展開に向けてしっかり取り組んでまいりますので、どうぞ引き続き御協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

#### **【高野局長】**

ありがとうございました。続きまして、デジタル庁の三角デジタル監、よろしくお願いいたします。

#### **【デジタル庁 三角デジタル監】**

デジタル庁デジタル監の三角でございます。よろしくお願いいたします。

行政のデジタル改革推進にあたりましては、日頃から地方自治体の皆様には多大なる御協力をいただいております、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。今回、私からは

資料にございますように、出生届オンライン化の取組について、簡単に状況について御説明させていただきます。

デジタル庁では、ワンスオンリー、ワンストップ、届出を一回限り、手続も一カ所でできる、そういった行政のデジタルサービスの実現に向けまして、制度・業務・システムの三位一体で取組を推進しているところでございます。その一環といたしまして、出生届につきましては、2024年8月からマイナポータルを活用してオンラインで提出できるようにいたしました。これはまだ最初の取組でございますので、マイナポータルで作成した出生届に出生証明書の画像データを添付して自治体に提出する方式でございまして、現在実証として28自治体で導入済みの状況でございます。

そして、2025年、今年3月からは、オンライン提出に合わせて、新生児のマイナンバーカード交付申請を行うこともできるようになりました。また、今年度からマイナポータルの次期オンライン申請サービスの実証事業を進めておりまして、出生届も対象の手続としているところでございます。今後は、出生届及び出生証明書をデータとして自治体システムに連携する取組も検討を進めてまいり予定でございます。

こうしたオンライン化の取組に加えまして、マイナポータル上では、出生連絡票の提出や、児童手当の申請など、出産後に必要な手続をガイドするページを順次更新して、情報提供の充実に努めているところでございまして、これらの取組により、引き続き国民の皆様にも、より利便性の高いサービスをお届けできるように尽力してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、ゲストスピーカーによるプレゼンテーションに移ります。

子育てに関わる方々の声を取組に活かしていくため、本日はゲストスピーカーとして豊崎さんに御発言いただきます。豊崎さんはフリーアナウンサーとしてメディア等で御活躍されておりまして、SNS等で育児などについても発信されている2児の母でいらっしゃいます。

それではよろしく願いいたします。

### 【株式会社アミューズ所属フリーアナウンサー 一般社団法人シェア実家 代表理事 豊崎由里絵さん】

今日はこのような機会を頂きありがとうございます。フリーアナウンサーで、一般社団法人シェア実家代表理事をしております、豊崎由里絵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず簡単に自己紹介をさせていただきます。最初のキャリアとしては、大阪にある放送局に会社員のアナウンサーとして入社をしました。産休を経て、会社員として長男を出産して3ヶ月で産後復帰したんですけれども、その後半年で退社をし、それ以降はフリーアナウンサーとして活動しながら、当時保育士のアルバイトもして、現場を知りたいということで経験を積みました。

その後、子ども2人目を産んで、夫の転勤で東京に来ています。実家を頼れずに東京で子育てをする中で、そういう方って東京に少なくないと思ひまして、みんなでシェアできる実家のようなところがあれば、もう少し楽に子育てができるかなと思ひ、「シェア実家」というものを立ち上げました。今、世田谷区にある一般社団法人シェア実家で、地域のコミュニティスペースとか預かり保育の運営をしています。

そんな私が、こどもDXに期待していることについて、3つの経験からお話しさせていただきます。

まず1つ目は、子どもが生まれた時に申請する書類についてです。出生届、健康保険の加入、児童手当、乳幼児医療証、出産育児一時金、その他にもたくさん羅列しましたが、本当にたくさんあります。

このそれぞれの制度自体には、子育てをする側として大変ありがたいと思っているんですけども、その申請が多くは生後14日以内に申請するというものだったりするんですね。ただその生後14日以内というのは、お母さんにとってはまだ悪露と呼ばれる血液が体から出ている状態だったり、ホルモンバランスの急激な変化で精神的に不安定になりがちです。さらに私の場合は、授乳により乳腺炎を発症しまして、発熱して痛みで何日も眠れない夜が続くという時期でした。その状態で、複数の書類を準備し、各窓口を回って申請していくというのは、あまりにも現実的でないなと当時感じていました。私はほぼ全てを夫に頼んだのですが、家族のフォローが得られない御家庭もあるかと思ひます。そういう場合にどう乗り切るのかということを考えて、とても負担が大きいと感じていました。

この度、出生時の申請手続きがオンラインで全て完結するようになるとすれば、ここの部分での親の負担がかなり大きく減ることになるということで、大きな期待をしています。

続いて、予防接種についてお話ししていきます。

予防接種は生後2ヶ月の頃から始まります。2ヶ月というのは首も座っていないですし、親もまだ育児に慣れていない時期でもあります。

ちょっと話す時間もないのでここに絵で表したんですけども、これだけたくさんものものをカバンに準備して、その上で、接種予診票4枚だったり5枚だったり、紙で複写式に、自分の手で書くわけですね、5枚分。さらには乳幼児医療証とマイナンバーカードを持って行かなければならないんですが、産後脳と言われるぐらい、ちょっと頭の中で整理するのが難しい時期だったりすることもあり、よく忘れ物をしてしまいます。これはママ友とも話していてもよく出てくることなんですけれども、私も1枚予診票を忘れただけで家にもう一度取りに帰らなきゃいけないということも何度も経験をしました。

加えてまだこの時期というのは2時間おきに授乳をしているので、タイムリミットが2時間なんです。そうすると、これだけのものを準備しているだけでも30分とか経ってしまうわけなんです。もう本当に時間に追われながらこれをやるというのが大変だったので、母子保健オンラインサービスによってこれらの紙の書類がマイナンバーカード1枚で完結する、それだけを持っていけば接種が可能になる、という未来があるのであれば、大いに期待したいなと思ひています。

そして、一番大変だったと言っても過言ではない「保活」についてです。

私は、ライフスタイルに合わせて、大阪で3回、そして東京でも2回経験をしました。

まずは、この仕組みを理解するのに時間がかかるんですね。自治体によってそれぞれ異なっている紙の冊子をまずは熟読し、それから窓口で役所に行って直接質問したり相談したりします。その後、園に電話をそれぞれかけて、見学予約をとって行くわけですが、なぜこんなに自分で動いて情報を取りに行く必要があるのかと言いますと、やっぱり「生きた情報」がそこでしか今までは手に入らなかったんですね。例えば、通える保育園を探すときに、少し遠くて電車で2駅行かなければいけないところであっても、「ベビーカーで送ってそのまま保育園にベビーカーを置いておける」という情報を得たら、そこも候補に入るわけです。そういう情報はやっぱり概要には書いていませんので、自分で稼いで取りに行く必要がありました。さらに、この後園を見学に行くんですが、私は子どもが生まれる前、妊娠期からここまでをやっていました。それぐらいの情報戦でした。そして第10希望まで記入をし、私は当時住んでいた自治体では第8希望の園に決まったんですけども、各種書類の準備、手書きのものとか会社から取り寄せたり、多岐にわたる準備をして、さらにはここまで説明したものはほぼ「認可保育」と言われるものですが、「認可外保育」も同時に進めていくので、こちらは個別の連絡が必要なもので、またこれもとても大変な手続がありました。

そして申請が終わっても、じゃあ落ちたらどうすればいいんだろうという準備に入ります。待機児童用のベビーシッターの支援制度が自分の自治体にあるのかどうかを確認したり、ファミリーサポートへの登録をして、サポーターさんが近くにいるかを探したりと、もう何重にも保険をかけて仕事をする前に準備をする必要がありました。夫婦共に何度も疲弊をしたことを今もリアルに覚えています。

今回、この保活ワンストップにより、事前相談と情報収集、それから見学予約、申請、結果の受領までが、全てオンラインで行うことができるとすると、親の負担はかなり大きく削減できていると思います。

最後に、このDX化によって、パートナー同士が、片方が頑張るのではなく、同じ情報を同時に得られるようになる未来に大変期待をしています。そしてその情報というのは、今役所にある情報をまとめたものに留まらず、ぜひ、ママやパパの情報交換で得られるような「口コミ」みたいな情報もぜひ取り入れていただければ嬉しいです。そして、自治体間で書式が揃っていると、引っ越しなどの時に煩雑な作業を減らせます。

こどもDXと言いながら親の話を中心にしてきてしまったんですけども、ストレスを減らして少しでも親にゆとりができたなら、それが子育てに通じますので、子どもたちの幸せにつながるのではないかと信じています。ありがとうございました。

#### **【高野局長】**

豊崎さん、どうもありがとうございました。

小池知事、国、そして豊崎さんのお話を聞いての感想をお願いいたします。

#### **【小池都知事】**

はい、ありがとうございます。それぞれ各府省庁の皆様方から、これまでの取組、そして、今後取り組まれることなど御報告いただきましてありがとうございます。情報共有していきたいと思います。

それから、豊崎さんから、御自身の実体験に基づく大変リアルなお話を伺いました。本当に不安であると同時に、それだけの手続をこなさなければならないというのは、ダブルで大変だということも伝わってまいりました。大変参考になったところでございます。

また、共働きで早期の職場復帰を目指す御家庭にとっては、近くの保育施設に関する情報収集というのは、本当に極めて重要だということを承知いたしております。

それだけに、この保活も含めてでありますけれども、こども DX というのは極めて重要だというふうに感じております。

デジタルで完結していくというのが当たり前の社会、また、デジタルも様々な課題もございませけれども、セキュアで、そして、それぞれの生活、24時間決まっているわけで、これをどう活用していくのか、ぜひ子育てのところにも、また、自分磨きのためにも使っていただきたい、そのような環境を作っていきたいと思っております。

それぞれ御意見をいただきました。真摯に受け止めて、東京都としてできること、また、オールジャパンで今後ともできることを進めていくことができればと、このように思っております。今日は誠にありがとうございました。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。

小池知事は都合によりましてここで退席させていただきます。

#### 【小池都知事】

ありがとうございました。

#### 【高野局長】

続きまして、本日御参加の国、区市町村のそれぞれのお立場からの御発言をいただきます。

まず、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局の望月事務局長代理、お願いいたします。

#### 【内閣官房 デジタル行財政改革会議事務局 望月事務局代理】

改めまして、望月でございます。

我々が思うことは、改革を広く普及させるためには、みんなで目標を共有しないとけない、足並みを揃えて進めることが大事だということでございます。そのためにも、東京都さんをはじめまして、地方自治体の御意見また御提案を丁寧にお伺いして、一緒になって結果を積み上げていくということが必要だろうというふうに考えておりますし、そういった形で推進していきたいと思っております。本日の会議におきましても、東京都さん、また GovTech さんも、我々デジタル行財政改革会議事務局とか、こども家庭庁とかデジタル庁と連携して、子育て分野における取組を着実に進められていると、また、新たな成果を上げられていらっしゃるということを伺いをいたしましたので、そういう面でも大変心強いというふうに考えております。

今後、都の知見を生かして、国全体の取組に関しても、その定着、円滑な運営を進めていきたいなというふうに考えておりますので、その上でも大変に参考になるものだというふうに考えているところでございます。引き続き、しっかりと連携をしながら、その際には、国、自治体、プラス民間の方、今日、こども DX 推進協会さんとかもいらっしゃいますけれども、民間

の皆さんともよく連携を取って、子育て世帯の皆さん、また保育の現場、子を預かる皆様と意見をしっかりと交わしながら、普及を進めてまいりたいというふうに考えております。より一層御協力を賜まれば幸いです。以上でございます。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。続いて、こども家庭庁の藤原長官官房長、お願いいたします。

#### 【こども家庭庁 藤原長官官房長】

藤原でございます。先ほどは現在進行中のこども DX プロジェクトの進捗状況ですとか、あるいは豊崎様からは、実際の子育ての立場から DX で期待される点について大変貴重な意見を頂きました。ありがとうございます。

私の方からは保活ワンストップ以外の取組についても少し補足的に御説明申し上げたいと思います。まず、こども家庭庁では、本年 6 月に具体的な取組内容や工程表を定めた「こども政策 DX の実現に向けた取組方針 2025」を取りまとめて、この方針に基づいて保育や母子保健分野での DX を進めているところでございます。例えば母子保健の DX につきましては、電子版母子健康手帳について、現状、紙での交付や記載ということが前提になっているわけですが、デジタルで提供してスマートフォンなどで記録・閲覧ができる仕組み、こういったものを進めてございます。これにより住民、自治体、医療機関などの関係者間での情報共有が容易になるとともに、健診や予防接種の管理や個別の状況に応じたプッシュ型の通知と、こういった効果的な支援に、全国的な支援に繋がっていくということが期待されます。

電子版の母子健康手帳につきましては、我々有識者の検討会におきまして在り方を検討してまいりました。これを踏まえ、今年度はガイドラインを策定するというようにしております。環境が整ったところから順次活用いただきたいというふうに考えております。

また、母子保健分野の PMH の取組状況ですが、令和 6 年度からは先行的な実証事業ということで全国共通の情報連携基盤である PMH を活用した乳幼児健診などのデジタル化を開始しており、現在 11 の市町村で参画をいただいております。PMH を活用することによりまして、妊婦健診や乳幼児健診につきまして、住民、医療機関、さらに自治体それぞれについて大きなメリットがございます。こうした取組を通じて、住民の利便性の向上を図り、医療機関や自治体の事務負担の軽減、こういったことも合わせて効果が出るように引き続き取り組んでまいります。

また、保育につきましても、保活だけではなく、保育業務の施設管理プラットフォームの構築についても進めております。給付や監査の保育業務のワンズオンリーの実現ということで、これは保育士や自治体の事務負担を軽減し、保育の質の向上にも資するというところで、令和 8 年 4 月からの全国展開に向けて構築を進めております。こちらについては、11 月の時点で約 340 自治体から利用申請がありまして、東京都さんからも 11 自治体に申請をいただいているところでございます。このプラットフォームは任意で御活用いただくものではありませんけれども、公定価格の変更など制度の変更のタイムリーな反映や将来的には広域請求機能などを付与することなども予定しておりますので、国のシステムとしてのメリットもございます。しっかり進めていきたいと思っております。

最後に、先ほど豊崎さんからはこども DX への期待、締め括りのお話としてストレスを減らしてゆとりのある子育てを、というふうな締めの御発言をいただきましたので、こども家庭庁

としてもしっかり受け止めたいというふうに思います。また、この DX は人手不足に非常に苦  
労している保育業界の中でも保育人材の確保、それから保育の質の向上、こういった観点から  
も非常に重要な課題でございますので、政府一丸となって、また東京都の取組をしっかりと参考  
にさせていただきながらしっかりと進めていきたいと思っております。以上でございます。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。続いて、デジタル庁の三角デジタル監、お願いいたします。

#### 【デジタル庁 三角デジタル監】

本日はこのような場をありがとうございます。皆様方から非常に貴重な御意見いただいでい  
まして、私自身も、30 年前に結構子どもの世話を色々、手続きも含めてやっていたので、だん  
だんと思い出してまいりまして、この重要さを非常に感じているところでございます。

まず最初に、東京都様の皆様の先行的な取組や進捗状況を御紹介いただきまして、現場の工  
夫や実装の方向性、具体的に共有していただけること大変参考になりまして、私どもも情報連  
携とかいろんな制度の改革とか色々やっているわけでございますけれど、まだ取組、色々や  
らなければいけないことたくさんある中で、どういったところが重要になるのかということ  
を改めて認識できたところでございます。

また、先ほど豊崎様のお話、非常にリアルで、最初に申し上げたように自分自身のことを思  
い出しながら、妻がものすごい大変だったと改めて認識した次第でございます。これはますま  
すやらなければいけないということを認識した次第でございます。その情報収集における負  
担、そこも含めて重要だということ、私達が提供する情報サービスに期待される役割を改  
めて実感したところでございます。こうした声、こうしたお話を直接伺うことができる、非常  
に重要でございまして、やはり私どものサービス、それから情報連携、アーキテクチャーの考  
え方とそういうところを、どういうふうに考えていくかという時に、基本的な大事な情報、イ  
ンプットになると思っておりますので、しっかりと受け止めてまいりたいと思っております。  
大変ありがとうございます。

それから、私どももやっていますけど、このデジタル化、ここはやはりデジタル化に非常に  
子育て世代、親和性の高い世代でありまして、こうした方々と一緒にやっていける、そうい  
うどんどん参加していただき使っていただける、そういったことをしていくためにも、ますま  
す利用者視点で行政サービスを届けることが不可欠だと考えておりまして、そのためにも今日  
のような国、それから、都、事業者、子育て事業者の方々、それから自治体の方々がお集まり  
いただいて、この取組状況・視点、それを共有する機会ということは大変参考になると思っ  
ております。

最後になのですが、デジタル庁といたしましても、皆様と歩調を合わせながら制度・業務・  
システム三位一体で子育て DX を推進する役割しっかりと果たしてまいりますので、子育て世  
帯に必要な支援が確実に届き、現場にも、利用者にもメリットが生まれる仕組みを実装し、全  
国に広げていくために、引き続き御一緒させていただきたいと思っておりますのでよろしく  
お願い申し上げます。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、都内区市町村から、自治体の CIO をお務めの 2 名の

方に御発言をいただきます。

まず、新宿区の寺田副区長、よろしく願いいたします。

### 【新宿区 寺田副区長】

4 回目の出席をさせていただきまして、まずはありがとうございます。

来る度に勉強させていただいておりまして、先ほど豊崎さんからお話を頂いたときに、私、1 年だけ保育課長を、前も発言したことございますけども、やらせていただいたことがありまして、その時、議会で怒られたことを思い出しまして、何かと申しますと、保育園を新しく作るときの仮園舎を作っていたんですが、確かにベビーバギーを置く場所は御用意をさせていただいたんですが、実は屋根がありませんでした。それはそうですよね、送ってくるときにはカバーをかけてお子さん濡れないようにしっかり保護されて御登園なさると。ただしそれはずっと置きっぱなしにしておくくと雨水は染みてきてしまいますので、どんな雨でもですね、私は慌ててそのときに自分たちの技術分野に、もう突貫工事でいいから屋根作れっていうのを言ったことをお詫びと共に思い出しました。

また、それを思い出すと同時に、今お話を伺ってしまして、その私どもの頭の中にそうしたその環境全てを情報として提供する術まで、実際自分たち現場を担っているにも関わらず知恵が回っているのだろうかというところで、また今日も反省をさせていただきまして、例えばで申し上げますと今、非常に電動アシスト付きの自転車の御利用が増えてございます。これはもう時代の流れでございまして、当然のことだと思いますが、自転車の長さが非常に大きく、車体が大きくなってきてございまして、都会の保育園ですと、なかなかそうした場所を、これ実は幼稚園でも小学校でも似たようなことが言えるのですけれども、収容できるようなスペースがない。今度お子様を保育園に例えばお預けになろうとするお父様お母様が、そうした場所が自分の希望している園にしっかりあるのだろうかというところまで情報提供できているかって言うと、ちょっと私どもが今アナログでやっているところでも、図柄にもですね、そうした準備は十分でないなというのを今日気づかされたところでございます、そうした点にも配慮が必要でございますし、また自転車ということになれば、お近くの駅まで、多分その自転車をお使いになる方もいらっしゃる。そうすると保育の現場だけではなくて、近隣のその都市環境、自転車置き場の整理やそれからまた利用料金のことまで含めてやはり視野に入れていかないといけないのだろうかと、また自分の視野の狭さをここで今日気づかされたのが1つでございます。

もう1つは、これも大変ありがたいお話でございまして、PMH が広がっていくのは当然のことでございます、多分私どももうすでに検討に入っておりますので、例えば東京 23 区、あるいは市部も含めてでございますけれども、5 歳児健診なども拡大をしていくのだろうかと。そうした情報が、プッシュ型であり、予約がスムーズに取れ、本当にストレスで、子育てが全社会において地域社会によってバックアップができるような、そういう構造を目指していくべきなのだろうと。ここまでのどり着くには、相当な努力と、場合によっては言い訳になるかもしれませんが、お時間がかかるのかもしれませんが、御容赦をいただかなければいけない部分もあるのかもしれませんが、あるべき将来を見据えて、それこそ子どもを真ん中に、というフレーズがあるとおり、それらを目指して様々な点で皆様方のお知恵と、またお力添えをいただきながら、行政の方、現場を担う行政、自治体としては、そうした思考性を忘れることなく邁進してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いをいたしま

す。

### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、福生市の福島副市長、お願いいたします。

### 【福生市 福島副市長】

福生市の福島でございます。本日はお招きをいただきましてありがとうございます。

それでは私どもの取組につきましてお話をさせていただきまして、先ほど保活についてお話がありました、後ほど少しお話しさせていただきたいと思います。

当市では「子育てするならふっさ」というスローガンのもと、従前より子育て関連策を積極的に展開をしてきたところでございます。そのお陰をもちまして、日経 BP の方の民間企業でございますけれども、共働き子育てしやすい街ランキング、これでかなり高い評価を頂きまして、今年度は全国で2位ですか、東京都では26市中1位という、ただ物差しが毎年違っておりました、それを真には受けられないかなってということもありますけれども、でも評価は評価でございますので、ありがたく頂いているところでございます。

ただ、一方で情報発信の在り方につきましては、まだ課題が残るのではないかとこのことを感じておりました、そこで子育て支援に関する情報を分かりやすくまとめました、いわゆる情報サイト、「こふくナビ」でございますけれども、こちらを令和3年10月から運用しているところでございます。また、平成27年の6月からは、子育てモバイルサービスとしまして、「予防接種・子育て健康ナビ」というものを配信しておりました、このサービスは予防接種のスケジュール管理、こちらが御自分でできまして、子育て情報を見ることができる、そういったサイトでございます。妊娠出産に関する情報や子どもの健診、両親の健康、パパママの健康ですね、そして乳幼児の救急事項の対応や助成、手当、そういった幅広い方面からの子育て情報とリンクをしておりました、多くの方々に御利用いただいているところでございます。これらの子育て情報につきましては、市の公式LINEのアカウントでも検索が可能でございまして、子育て世代のニーズに即した取組を実践しており、プッシュ型による情報発信も推進しているところでございます。現在の子育て世代の、お父さんお母さんの世代の方はスマホをお持ちでございますから、全てスマホで情報が収集できると、そういうようなところでLINEの方で出していると、そんな状況でございます。

また平成21年度より、子育て世帯への経済的支援と商店街振興を合わせました施策としまして、子育て支援カード事業を実施しておりました、これも「ふっさ子育てまるとくカード」という名称なのですが、こちらを発行しております。このカードは子育て世帯への支援と市内商店街の活性化を目的としまして、中学生以下の子どもや妊婦のいる世帯に「ふっさ子育てまるとくカード」を発行しまして、協賛店での割引等のサービスを受けられるといったものでございます。ただこれは紙ベースでの発行でございましたので、令和5年度からカードを電子化いたしまして、スマートフォンで表示できるように改善をいたしました。また協賛店さん側の方でも、大分ホームページとか今作っておりますけれども、作っていない協賛店さん、小さい個店さんもいらっしゃいますので、ウェブサイト構築をしまして、写真を付けたり、商店の紹介ですね、そんなものをさせていただいております、利用者や協賛店さんの利便性の向上を図ると、そんな形を今展開しているところでございます。

そしてPMH関係につきましては、当市は令和8年2月から接続する予定となっております。

す。

そして最後に保活ワンストップの件でございますけれども、先ほど豊崎さんの方からちょっと耳の痛いお話を伺いました。直接現場を預かっている基礎自治体としましては確におっしゃるとおりの部分がございます、その辺につきまして、私個人的な考えとしましては是非ともいわゆる保育園のマッチングにつきましてはDXは進めるべきだと思ってるんですね。ところが、保育園側の方がどうもそのDX化に躊躇しているというか、直接面会に来ていただいて、あるいは電話で紹介をいただいて、顔を見て判断をしたっていうニーズがあるみたいなんです。ただそれはやってみればこんな便利なことはないですし、また行政側としましても非常に事務の軽減になりますから、これは是非進めたいと思っておりますので、今ちょっと足踏みをしておりますけれども、ちょっとお尻を叩いていこうかなと、そんなふうにございます。

いずれにしても、色々と環境を整えればどんどん取り組んでいきたいと思っておりますけれども、このような機会に参加させていただきまして、いろんな情報を頂きながら、これからも進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。以上でございます。

#### 【高野局長】

ありがとうございます。

続きまして、民間を代表いたしまして、一般社団法人こどもDX推進協会の高石代表理事から御発言をいただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【一般社団法人こどもDX推進協会 高石代表理事】

改めまして高石でございます。よろしくお願いいたします。

豊崎さんのお話を伺って、本当に今日持ち帰って、我々の協会の会員の方でもまさに保活情報に関連したサービスを提供されているベンダーの皆さんもいらっしゃる中で、一般的に駐車場とか駐輪場って大体情報として載せているのですが、確かに、いわゆるベビーカーのところとかの痒いところに関しては、施設の方で重要事項説明だったりとかするタイミングで聞くケースが正直多いかなと思っております。そういった痒いところにユーザーのニーズがあるっていうところに関しては、我々のベンダーにとっても重要な示唆になるかなと思っておりますので、是非持ち帰らせていただきたいなと思っております。

また、今回御参加いただいているこども家庭庁の皆さん、デジタル行財政改革の皆さん、デジタル庁の皆さん、そして東京都の皆さんとも当協会は連携させていただいております。今、資料に出させていただいている、「協働プラットフォーム」という言い方で、我々民間のベンダーだけだとなかなかデジタル化の推進というのは当然難しいものがございまして。先ほど色々皆さんおっしゃっていただいたとおりに、いろんな情報を我々も受けて、そこからどうやってデジタルで繋げていくかというところがすごい重要だと思っております。なので、民間ベンダーだけではなくて、いろんな省庁の皆さんと連携をしながら、この協働プラットフォームというものを作っていきたいということで、活動しております。

これまで、「こどもDX2025」の立ち上げの時から色々連携をさせていただきながら、まさに保活ワンストップのところに関しても、協会全体として取組をさせていただきました。特に先ほどおっしゃっていただいたような保育園の皆さんと、保育園を使う皆さんの、デジタルに関する認識、もしくはリテラシーというのはだいぶ差があります。ついては、我々民間ベンダー

としましても、特にこの UI、UX ですね、ユーザビリティのところについては我々のような知見が活きる場所でもございますので、この部分については今後も連携をさせていただきながら、より改善をしていながら、当然保育園を使う保護者の方だけじゃなくて、保育園幼稚園の皆さんにも活用していただけるようにしていくということと、当然ワンストップ、1つの操作もしくは1つの作業で全て繋がるということに関して連携させていただきたいと思っています。

最後にやはり安全性の部分ですね、どうしても我々は取り扱いさせていただいている情報というのがお子さんの情報ということで、極めて秘匿性高く完全に安全性を担保しながら活用しないといけない情報がございますので、ここについても、今後協会としても、どういう個人情報の取り扱いしてくのかっていうところも含めて、より積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

今後も皆さんと連携を取りながら、個社だけではなく協会全体として、こども DX を推進しながら、まずは、とはいえ、子どもにかかる皆さんがしっかり時間を確保できるというところがないとその先のお子さんにはいかないと思っていますので、保護者の皆さん、そして保育園幼稚園の皆さん、そして自治体の皆さんの業務削減、時間を生み出すっていうことをしながら、支援できるようにしていきたいと思いますので、今後とも御支援のほどよろしく願います。今日はありがとうございました。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。ここまでの皆様の発言を受けまして、東京都から発言させていただきます。

まず、中村副知事、お願いいたします。

#### 【中村副知事】

本当に本日お忙しいところありがとうございます。いつもそうですが、大変参考になる話ばかりだったと思っています。私もこの会議最初から色々関わらせていただいております。東京都自体、非常に子育てというのが、子育てに対しての評価も、都民の方々の評価も高い、また、上半期出生数もプラスになっている、後ほど話もあるかもしれない、という形がありまして、こういうのも本当に皆様方の日頃の色々な形の御協力のおかげだと思っています。

この会議やはり、具体的に動かしていく、あるいはリアリティのある話の中で動かしているというところが特徴だと思っております。そういう中でも今日色々参考になる話がありました。その中で今やっている4つのプロジェクトについて言えば、やはりワンストップで色々行政の縦割りとか横割りを排して、そういう形でサービスを提供する、こういう基盤はある程度できてきているんだと。これをどういうふうに使っていくかという形になっているんだろうと。PMHの方も進めていくという形になっている、という形の中で、給付については、やはりこういうのをできるだけうまく使って、そびれがないような形にしていく、という形なんだろうと。

私の中でも、やっぱり大事だなと思っているのは、そういった018サポートなんかもそうなんですけど、1対1で繋がる関係が非常に有効なんだろうと思っています。それは018のときにも色々な状況とかニーズっていうのを直接的に色々伺えると、こういう話。今日も本

当に色々の現場の中でお話を伺えるわけですけど、そういったのは非常に貴重だろうという形で思っています。世の中も変わりますし、業務を変えていかなきゃいけないところもあるので、こういう中でそういった直接的に繋がるというところが、そういうのにつなげていくということが大事だろうということを改めて感じまして、今日も豊崎さんのお話も聞きまして、改めてやはりDXの目的というのが、そういった満足度を高める、あるいは手取り時間を増やすと、こういうことだという形改めて思う中でも、そういったメリット、繋がっているメリットをどうやって活かしていくかっていうところを、改めて考えていかなきゃなというのを思ったところでございます。

あとはもう1点は、こういう分野、非常に色々皆様のお力で進んできているところあると思っているのですが、我々東京都としても、様々な他の分野にもこれを広げていく。またそういう形を全国にもまた色々な形で御紹介していくと。こういう形をやっていく必要があると思っておりますので、引き続きどうぞ色々な形で御支援を賜ればと思っております。本当にどうもありがとうございます。

#### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、栗岡副知事、お願いいたします。

#### 【栗岡副知事】

どうもありがとうございます。

今日はGovTech東京の方から、4点進捗状況をお話いただきましたし、あと国の方から、デジタル行財政改革会議と、こども家庭庁、デジタル庁さんから現在の進捗状況をお話いただきました。

先ほど来お話が出ていますようにこの会議は、関係者が集まって、事業者も含めて具体的な課題を1つ1つ解決していくというところに非常に、立場を超えてやることに大きな意義があるのかなと思っています。よく宮坂副知事が私どもに、縦軸と横軸っていう話をいつもしてくださるんですけど、そういった縦と横を全て交えてやっていくってということがすごく大きな効果を生み出しているのかなと思いました。

一方で豊崎様からのお話も、私も昔保活とかやった記憶あるので、ただ、当時は今みたいにサービスがたくさんあったわけでもないの、それはそれで限られてはいたんですけども、今の方がそういう意味では選択肢が多い分、いろんな手続もものすごく多くなっているんだろうなっていうのは感じました。

寺田副区長もおっしゃっていたように、施設の管理している側から見るとなかなか気づかない点があるってということについても、先ほどの御提案いただいたような、行政が直接やるのは難しいかもしれませんが、ママパパの口コミみたいなお話ってのは結構重要かなと思います。そういうところでいろんなお声を上げておいていただくと、見させていただいて、ああこれはやっぱりそうだな、っていうのは気づく非常に重要なポイントにもなるのかなと思いましたので、そういったことも気づかせていただいてありがたいなと思いました。

今日は、子育て関係の話を中心にやっていただいていますけども、やっぱり行政から見るとこの後防災ですとか医療ですとか、インフラですとか、様々な分野で職員の数も減っていきま、どうやってその技術を高めながら一体となってやっていくかってことが非常に大きな課題になってきますので、まずこの子育てのところをやった次に、そういう分野にどんどん拡大

していくべきなのかなと思ってます。

そのための1つのインフラとして、GovTech 東京みたいなものは非常に、すごく機能してくださっているなと思いますし、私どもも昨年ぐらいから区市町村との人事交流っていうのはかなり増やしてきています。これはおそらく、これからそういうことをどんどんやっていかないと職員数もどんどん減っていきますので、顔が見える関係の中でいろんなことを解決していかなくちゃいけなくなってくるのかなと思っていてますので、そういったいろんなところに影響してくるお話かなと思って今日は聞いておりました。どうもありがとうございました。

### 【高野局長】

ありがとうございました。続きまして、松本副知事、お願いいたします。

### 【松本副知事】

今日で昨年に引き続いて2回目に出席させていただきました。大変有意義なお話をたくさんいただきましてありがとうございました。

区と市では本当にきめ細やかな現場に即した様々な課題解決をされているということを理解しましたし、GovTech 東京とこども DX 推進協会のお二方からは行政と民間と、あと実際に利用される方をつなぐという貴重な役割をさせていただいていると、さらに国の御三方からは東京都の色々な成果も含めて全国に展開していただけるという、こんな嬉しい成果はないと思っております。そういう意味で、この会議が4回目を迎えたというところで、1つの大きな節目、成果を迎えたのかなというふうに改めて感じています。

さらに、豊崎さんから、非常にリアルなお話と知事も言っていましたけれども、私ももう20年30年前が懐かしくて、その頃しっちゃかめっちゃかだったなという経験がありまして、それからすると隔世の感があります。それでもやはり色々悩みながらやってこられたんだなというのを生の声を聞かせていただいて、さらにやっていくことがあるかなというふうに思った次第です。それで最後におっしゃっていただいていた、大人の話ばかり言いましたが、みたいなことおっしゃっていましたが、やっぱり大人のゆとりが子どもの、子育ての幸せを作るんだと思いました。DXって一見すると、量と質で言うと、時間という量の削減に即座につながるのかなと思ってしまいがちなんですけど、質的な充実も合わせて叶うという面で、すごくパワーのあるものだなと思っております。

それでさっき中村副知事からちょっとしみ出しがありましたけれども、こういう取組の色々な成果って全てが測れるものではないんですけども、盛り上がりが多分絡んで来ているのではないかなんかと思っていることがいくつかあるので御紹介したいと思うんですけども、1つが東京都の出生数が、昨年1月から6月までの半年の出生数が前年比で10年ぶりにプラスになったという実績がございます。それから2つ目には、去年も紹介させていただいたのですが、子育て家庭に対して、東京都が子育てしやすい地域ですか、という問いに対していつも85%超え、2年連続でそのぐらいの数字を獲得していたんですけども、いよいよ90%に近くなるような、そういう数字が出ております。さらに、別に家事・育児時間の調査っていうのもやっているんですけども、これは隔年調査なんですけども、最近に出た数字ですと、家事・育児時間が総量として減っているというふうに、まだそれでも高い水準ではあるんですけども、特に女性の家事・育児時間が減っていると。それはやっぱり色々な効率化が進んできたんだろうと分析をされていますので、必ずやこの会議の実績も繋がっているのではないかなんかと思います。また、同じ調査

に、男性と女性で、家事・育児を頑張っている自分にプレゼントがもらえるとしたら何、っていうので、男性も女性も「自分の時間」って答えているんですね。こども DX は相当やっていると思うんですけども、さらにもしかしたら違う分野も含めて色々取り組むことがあるのかもしれない。

今回のこのようなネットワークを色々な面で活かして、次なる課題解決に結びつけていけたらと思っております。本日はありがとうございました。

### 【高野局長】

ありがとうございました。最後に、宮坂副知事、お願いいたします。

### 【宮坂副知事】

今日も皆さんありがとうございました。私も毎回この会に出るたびに、本当に皆さんからいろんな視点を頂けて考えるヒントになっています。

2 回目の会議では、いろんな支援制度があるのはとても嬉しいんだけど 1 番欲しいのは時間です、とおっしゃった方がいらして、それで都庁では最近、手取り時間を増やすって言い方をよくしているんですね。時間は誰にも貴重なものですが、自由にできる時間、子どもと向き合える時間が増えるっていうのが DX の本当の目的の 1 つだと思いますので、手取り時間を増やすためにもこういった仕事を是非やりたいなと思いました。

今日頂いた、手取り時間と並ぶパワフルなキーワードは、豊崎さんがおっしゃった「情報戦になっている」という言葉だと思っています。情報戦ということは勝つ人と負けている人がいるってことで、本来、子育てや介護に情報戦って言葉があるのは、行政としては良くないんだろうなと改めて痛感しました。我々がこれから頑張って、情報戦をしなくてもみんなが機会均等でいいサービスが受けられるように、知りそびれない、受けそびれない環境を作っていきたいなと今日は思いました。

そのためにも、このつながる子育て推進会議が今後の大きな推進のヒントになればなと思います。従来だと、例えば、豊崎さんが都庁に来ていただいて、新宿区に行って会議に参加されて、福生市の子ども会議に出て、こども家庭庁に会議に行くと、会議だけで 5 回ぐらい出る必要がありましたが、先ほど、望月さんが目的意識を共有するのが大事だって話をされましたけど、こうやって関係する人がみんな集まることで、組織ごとに検討会をやらないっていうのは、改めて意義があるのかなと思いました。

昔と比べて、非常に追い風なところもたくさんあると思っていまして、デジタル庁さんと総務省さんの頑張りが非常に素晴らしいと思うんですけど、マイナンバーカードが 1 億枚を超えているのも本当にすごいことだと思います。あとは携帯キャリアの皆さんの努力もあると思うんですけど、スマホの保有率が 8 割を超えてきて、特に 20 代から 50 代までの主に現役世代は 90 数%になっています。これは 10 年前にはなかったインフラですので、今こそこのすごいインフラを使って、我々、行政関係者が組織の壁を超えて、情報戦がない世界を是非作っていかねばなと思いました。

先ほど知事からお話がありましたけれど、こども DX の取組は、ここでみんなで一生懸命考えながら進めていきましたけど、国のお力も借りて全国に広がり、その 1 つの道筋が出てきましたので、こういった仕事をもっともっと増やしたいと思います。ただ、こども DX に関しては、全国展開フェーズに入ったということで、つながる子育て推進会議については、今日を持

って区切りとして終了とさせていただきたいと思っております。

一方で、関係者が一堂に集まって、何が問題なのかと話し合っ、そして目的意識を共有して進めていくことの意義がよく分かりましたので、例えば、先ほど話題に出ましたが、介護、医療、防災とか、組織の壁を超えてやらないといけない、デジタルならつなげられる話がたくさんあると思いますので、それについては、今後もまた皆さんと相談しながら集まれる場を作ってやっていければと考えております。

これまで本当に時間を取っていただいて、それぞれ皆さんの手取り時間を割いていただいて、毎回毎回都庁に来ていただきまして、本当にありがとうございました。引き続きしっかりとやっていきたいと思っております。今日はありがとうございました。

### **【高野局長】**

どうもありがとうございました。本日予定していました議題は以上でございます。先ほど宮坂副知事からもお話がありましたけれども、2025年度までの実現を目指して取組を進めてきましたこのこともDXにつきましては、組織の垣根を超えて皆様方と取組を推進したことで、それによりまして全国に展開できるサービスへとつながったということでございます。そのため、この会議につきましては、今お話があったとおりでございますが、今回の会議を持ちまして一区切りとさせていただきたいと思っております。

これまでの皆様の御協力に感謝を申し上げますとともに、引き続き、皆様と共に子ども分野におけるDXを推進していきたいと思っております。本日はお集まりいただき誠にありがとうございました。これにて会議を終了させていただきます。ありがとうございました。